

平成26年度学校評価報告書(自己評価)

北九州市立 富野中 学校

校長名 山下 新三

本年度の重点目標

○〔重点目標1〕学習規律の確立と授業改善に努め、一時間一時間の授業を大切にするとともに基礎学力の定着と更なる学力向上のための取組に努める。

○〔重点目標2〕特別支援教育や不登校対策を含む全職員による生徒指体制を確立し、共通認識・協働実践による家庭・地域・関係機関と連携した積極的生徒指導を推進する。

○〔重点目標3〕自立心や自律性、生命尊重の心、自尊感情を高めるための道徳教育に積極的に取り組むとともに、あいさつ運動および地域に根ざした体験活動を推進し、豊かな心の育成に努める。

また、健康で安全な活力ある生活を送るための基礎を培う健康教育の充実を図る。

○〔重点目標4〕人権尊重の理念のもと、生徒が自他の人権を守ろうとする意識を高め、実践的な行動ができるように人権教育をより一層推進する。

○〔重点目標5〕学校・家庭・地域等の連携を一層密にし、地域に根ざした開かれた学校づくりを推進する。

○〔重点目標6〕小中一貫教育を推進し、9年間を見通した連続性・系統性のある学習指導・生徒指導に努める。

○〔重点目標7〕生徒が自らの命を大切に、場面に応じて判断し、最善を尽くそうとする態度や率先して行動する力を育む防災教育を推進する。

	a: 評価項目 (取組の内容、目標達成のための手立て)	b: 取組の状況 (データや資料等を活用して説明)	c: 評価	d: 成果及び改善方策
重点目標1	・基礎学力の定着と学力向上の取組を実践する。(手立て)学力体力向上プランの作成。朝自習。放課後の質問教室。漢字コンクール、単語コンクール等の基礎学力コンクールを実施。自主学習ノートの活用。	・学力向上研究委員会を設置し、学力・体力向上プランに沿って取り組んだ。全国学力・学習状況調査やアンケートの結果を分析し、課題解決に向け適時有効と考えられる具体的方策を学年を中心に取り組んだ。	B	・漢字や英単語の基礎学力コンクールの取組による生徒の学習意欲づけや放課後質問教室を実施した。また、学力向上プランを作成し、全国学力・学習状況調査の結果を分析して、課題の分析と取組の確認を行った。1、2年では、自主学習ノートを作成し、家庭学習の充実に向けて取り組んだ。依然、学力等の課題はあるが、学力向上にむけて計画的かつ多面的に取り組んでいく。全国学力・学習状況調査の結果は、HPIに掲載した。
	・一時間一時間の授業を大切に、学習規律の充実と学習環境の整備及び指導方法の工夫・改善を図る。(手立て)・学習規律の決まりを作成。掲示物の充実。職員研修。校内巡視の徹底。	・授業の状況を担任、教科担任、学年職員等の情報共有や生徒指導主事や管理職による校内巡視により把握に努め、組織的に手立てに取り組んだ。	B	・「みんなで授業を大切にしよう」を作成して全体に周知した。指導主事要請研修・全員研修会、小学校の授業見学等を実施し、授業改善に生かした。ノート紹介や調べ学習等の生徒作品や偉人の名言を廊下に掲示して、学習環境の整備を行った。年度当初と比較し学習環境は落ち着いたが、学習用具準備の徹底や授業改善等、今後も更に改善に取り組む。
	・少人数指導及びTTを取り入れた授業を推進し、個に応じたわかる授業を実践する。(手立て)教科指導、特別活動、総合学習で少人数授業を実施。学力向上の市費講師による学習補助を実施。「子どもひまわり学習塾」を実施。	・国庫少人数加配や学力向上の市費講師を活用するとともに、授業内容に応じて複数職員で指導に取り組んだ。子どもひまわり学習塾は、15名の3年生を対象に取り組んだ。	B	・教科指導および特別活動や総合学習等において、少人数指導やTTを取り入れた授業を実施した。数学科においては、市費講師による週12時間のTT授業を実施した。3年生の一部を対象に行った「子どもひまわり学習塾」は、生徒が意欲的に参加した。来年度も継続して教育委員会に要望している。一人一人の個に応じたきめ細かい指導の継続的な取組が今後も更に必要である。
重点目標2	・特別支援教育の推進を図り、指導体制を構築する。(手立て)・生徒指導委員会に特別支援学級担当者を加入。特別支援学級だよりの職員配布。学級通信による情報提供。	・平成18年度より本校に特別支援学級が設置されているが、特別支援教育推進の具体的手立てが見られず、これまでの反省に立って取り組んだ。	B	・生徒指導委員会に特別支援学級担当者が加わり、特別支援教育の視点をもって組織的に生徒指導の内容検討ができた。特別支援学級通信を職員に配布したり、学校通信で特別支援教育について情報発信したりして、特別支援教育の推進を図った。
	・いじめ防止に組織的に取り組む。(手立て)・いじめ対策生徒指導委員会を週1実施し、情報共有と方向性の確認。生活アンケートやQ-Uによる調査。教育相談の活用。	・生徒指導委員会を中として、いじめ調査アンケートによるいじめの状況把握や未然防止に取り組んだ。また、いじめに関する教育委員会の取組にも積極的に参加した。	A	・学校いじめ防止基本方針を策定し、いじめ問題への対応を確認した。いじめ調査アンケート・生活アンケート・Q-U・教育相談等を計画的に実施して、いじめ問題の早期解決と未然防止に努めた。いじめ防止サミットに代表生徒が参加し、その取組を生徒に紹介した。いじめアンケート結果によると、いじめ件数は昨年度より減少した。

重点目標2	・不登校問題に積極的に取り組む。(手立て) ・不登校改善推進委員会を週1実施し、情報共有と方向性の確認。生活アンケートやQ-Uによる調査。教育相談の活用。悩みをもつ保護者とスクールカウンセラーとの座談会の開催。	・毎日の生徒の出席状況を学年および管理職が確認して、不登校の未然防止に努めるとともに、スクールカウンセラーや少年支援室との密なる連携に取り組んだ。	A	・全職員が放課後集まり、生徒の情報共有と協働行動について確認する総括を毎週2回実施した。週1回の不登校改善推進委員会で、気になる生徒への指導方針の確認を行った。生活アンケート・Q-U・教育相談等で、アンテナを高めて生徒情報を収集し、生徒の状況把握と未然防止に努めることができた。また、悩みをもつ保護者とスクールカウンセラーとの座談会を3学期に実施した。
	・家庭、地域、関係機関等の連携による積極的な生徒指導を実践する。(手立て) ・地域からの連絡や情報への早期対応。積極的な家庭訪問。細かな関係機関との連携	・管理職や生徒指導主事を中心として、学校外の関係機関との連携をとった。また、日頃より担任を中心として、家庭訪問による家庭との信頼関係の構築に努めた。	A	・家庭訪問を重視し、学校と家庭との連携に努めた。常に地域や関係機関からの情報提供に対して迅速な対応に努めた。教育委員会や少年支援室・その他多くの関係機関との情報共有・協働歩調に努め、問題事象の未然防止や再発防止に努めた結果、昨年度に比べ、問題事象は激減した。
重点目標3	・自尊感情を高めるための道徳教育を推進する。(手立て) ・県の道徳教育推進事業を委託。生き方についての進路講演会の実施。生活アンケート・Q-U・教育相談の実施。体験活動の実施。道徳授業の推進。	・平成20年度から取り組んでいる「心に響く道徳教育」を引き継いで、本年度からQ-Uの分析結果を参考として、生徒の自尊感情や学級満足度の把握に取り組んだ。	B	・県の道徳教育推進事業の委託をうけ、事業予算でQ-U調査を実施した。生活アンケート・Q-U・教育相談による生徒の現状の把握と問題点の分析を行い、改善策を検討した。2度のQ-Uの結果比較より多くの項目で生徒の意識の向上が見られた。今後も自尊心を高める継続した活動が必要と考える。そのために道徳授業の教材活用と教材選定が重要である。
	・あいさつ運動を推進する。(手立て) ・生徒会やPTAによる取組。あいさつ運動、あいさつコンクールの実施。職員による呼びかけ。久保田賞の受賞。	・まず、毎朝職員やPTAから生徒へ声かけを継続して行った。また、生徒会執行部が中心となり、あいさつ運動を意欲的に取り組んだ。	A	・週2回の生徒会執行部によるあいさつ運動や月1回のPTAによるあいさつ運動、毎日の職員による声かけにより、生徒の元気なあいさつが多く見られるようになった。生徒会により授業開始前のあいさつコンクールも実施した。生徒会執行部とボランティア部の日々の活動が教育委員会から表彰され久保田賞を受賞した。
	・体験活動を通して、豊かな心の育成を図る。(手立て) ・保育幼稚園体験学習や農村民泊体験、修学旅行など多様な体験活動を実施。進路学習や進路講演会を実施。	・年間計画に沿ってその行事の有用性を確認しながら、計画的に取り組んだ。また、体験活動等の事前準備の段階を大切にに取り組んだ。	A	・1年生は保育幼稚園体験・門司港フィールドワーク、2年生は農村民泊体験・福岡フィールドワーク、3年生は修学旅行等、学校や日常では体験できないふれあいや貴重な体験を通して、豊かな心を育てることができた。生き方や進路学習に各学年取り組み、夢や目的をもって生きることの重要性について認識を深めることができた。3年生は進路講演会を実施した。生徒の自主性を伸ばすように配慮して活動に取り組んだ。
	・健康、食育、安全な生活を送るための健康教育を実施する。(手立て) ・栄養士による給食指導。「もぐもぐ通信」の発行。給食キャンペーンの実施。保健だよりの発行。危機管理マニュアルに基づく避難訓練の実施。朝の登校指導。ボタン式信号機の設置。	・食育の取組があまりなかったため、生徒会が中心となった残食キャンペーン等の取組を行った。また、生徒の健康や安全については、危機管理意識を持って、適時指導や声かけを行った。自治会長が中心となり信号機設置に尽力頂いた。	B	・厚生委員会が中心となり、給食キャンペーンを実施した。給食キャンペーンの取組により期間中残食が激減し、食育の意識が高まった。「もぐもぐ通信」はHPで公開した。養護教諭の保健指導を通して健康教育に取り組むとともに保健だよりで健康面について啓発した。安全指導は、危機管理マニュアルに基づき、3度の避難訓練や薬物乱用防止教室を実施した。また、自治会の働きかけにより、学校前にボタン式信号機を設置できた。
重点目標4	・人権尊重の理念のもと、人権教育の推進を図る。(手立て) ・教科指導およびあらゆる教育活動で人権教育を推進。	・地域をあげて人権教育に取り組んでおり、常に職員研修等を行い、人権意識の高揚を図っている。	A	・地域や生徒の実態を把握し、職員研修を行った。また、いじめや差別などあらゆる人権教育について教科指導をはじめあらゆる教育活動で人権感覚の育成に努めた。小学校やPTA、地域と連携して、人権研修を行った。学校評価アンケートから生徒の人権意識の高さが見られた。
重点目標5	・家庭、地域等との連携を積極的に図り、開かれた学校づくりを推進する。(手立て) ・家庭や地域への情報発信。学校通信の定期的な発行と地域の訪問。ホームページの更新。	・地域の中の学校として位置づけ、地域からの要望等については丁寧な対応と情報発信に取り組んだ。	A	・学校通信を月1回は発行し、校区の関係機関等に直接配布した。校区の行事に生徒や職員が積極的に参加し、ボランティア部は教育委員会から久保田賞の表彰を受けた。見やすくわかりやすいホームページを全面改定し、学校の取組等について掲載した。学校からの配布物が家庭に届かないため、いっせいでメールの更なる活用を検討している。
重点目標6	・小中一貫教育を積極的に推進する。(手立て) ・学校支援のための市費講師(旧:小中連携市費講師)の活用。こんにちは6年生の実施。交流会や3校合同研修会の実施。	・教師間、生徒間、行事等において、小学校と密接に連携を取り、小中連携を推進してきた。	A	・全市の新入生のための中学校説明会の他に、「こんにちは6年生」を実施して中1ギャップの解消に取り組んだ。小中連携通信を発行して、HPにアップした。学校支援のための市費講師が週に2回各小学校を訪問している。本年度は中学校職員が小学校で給食をいただく給食交流も実施した。3校合同人権研修会を3回実施した。
重点目標7	・防災教育を推進する。(手立て) ・避難訓練を実施して防災について説明。	・生徒の防災意識を高めるための避難訓練の取組や本校の立地条件の説明を行った。	B	・避難訓練時に、東日本大震災での釜石の奇跡の3つの約束事①想定にとらわれないこと。②最後まで全力を尽くすこと。③率先して避難すること等を全校生徒に説明した。今後、地形を考慮した土砂崩れ等の防災訓練が必要と考える。

※評価(例) A…目標を十分に達成できた B…目標をほぼ達成できた C…あと少しで目標が達成できた D…目標達成までいかなかった